

2011年4月26日

[報道関係者各位]

フライシュマン・ヒラード・ジャパン株式会社

医療情報は「かかりつけ医・主治医から入手」が6割以上

～患者さんは「身近な」相談できる場で、病気や薬の情報を入手している～

フライシュマン・ヒラード・ジャパン株式会社(本社:東京都中央区)の医療専門ユニット「FH ヘルスケア(代表:永田 正人)」は、通院治療中の患者さん300人を対象とした医療情報入手に関するインターネット調査を実施しました。

「病気や治療法・薬に関する主な情報入手方法は何ですか」という質問(複数回答可)に対して、もっとも多かった回答は「かかりつけ医・主治医からの情報」の63.3%、次いで「Webサイトの書き込み/コメント・ロコミ」の38.7%となりました。一方、「テレビ」「新聞」「雑誌」といったマスメディアからの情報入手は、2.3～17.3%と比較的低い割合に留まりました。

この結果から、患者さんは主治医の間診やソーシャルメディアのような、身近で直接相談できる場を利用して、医療情報を入手していることが伺えます。

また、「受診先の病院について、選択する決め手となった情報源は何ですか」という質問に対しては、「かかりつけ医・主治医からの情報」(33.3%)に次いで、「家族・知人からの情報」(30.0%)が他を引き離しており、病院選びの際と、実際に受診してから参考にする情報源は、大きく異なることが明らかになりました。

今回の調査結果を踏まえ、医師限定のコミュニティサイトを運営するメドピア株式会社代表取締役で、自らも臨床医である石見 陽氏は次のように述べています。

「病気や治療法に関する情報源として医師がトップに挙げられていることは、相互の信頼感を現しているものと考えられ、率直に嬉しい。今回2位となっているWebサイトの書き込み・コメントの存在感は、今後ますます増していくもの考えるが、患者はその両者の情報を可能なかぎり収集し、総合的に判断していく時代になるものと思われる。また、ご自身の今後の病状や治療の進め方について悩まれている患者が多いことも再認識できたので、一医師として、遠慮なく相談してもらえる環境づくりに努めたい。」

【その他の調査結果】

- 「自分の病気について、他人に説明できますか」という質問に対して、「ややできる」「正しくできる」と答えた割合は87.3%と、9割近くの患者さんは自分の病気を理解している。
- 「自分が飲んでいる薬の名前、効能・効果、用量を知っていますか」という質問に対して、「だいたい知っている」「全て知っている」と答えた割合は90.3%と、9割以上の患者さんが自分の飲んでいる薬についての知識を持っている。
- 病気や治療法・薬に関する悩みとしては、「今後の、自分の病気の状態について」「今後の、治療の進め方について」「食事や運動など日常生活での注意点・工夫点などについて」などが多く挙げられた。

The Fleishman-Hillard Global Network:

Albany · Amsterdam · Atlanta · Austin · Beijing · Berlin · Boston · Brussels · Calgary · Cape Town · Charlotte · Chicago · Cleveland · Dallas · Detroit · Dublin · Edinburgh · Frankfurt · Guangzhou · Hong Kong · Houston · Johannesburg · Kansas City · Kuala Lumpur · London · Los Angeles · Madrid · Manila · Melbourne · Mexico City · Miami · Milan · Minneapolis/St. Paul · Montreal · Moscow · Mumbai · Munich · New York · Ottawa · Paris · Portland · Prague · Raleigh-Durham · Sacramento · San Antonio · San Diego · San Francisco · San Juan · Seattle · Seoul · Shanghai · Singapore · St. Louis · Sydney · Tokyo · Toronto · Vancouver · Warsaw · Washington, D.C.

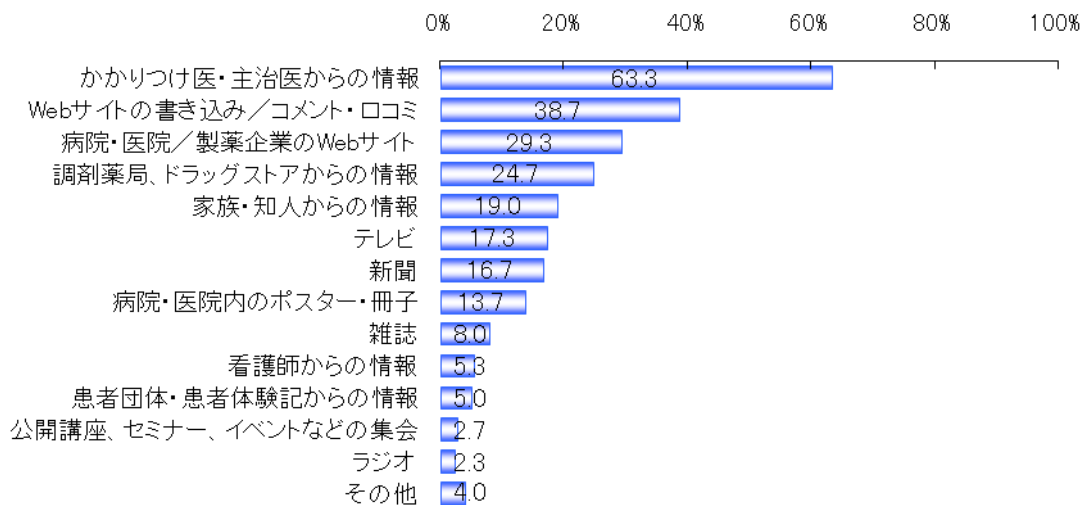
An Omnicom Group Company

【調査概要】

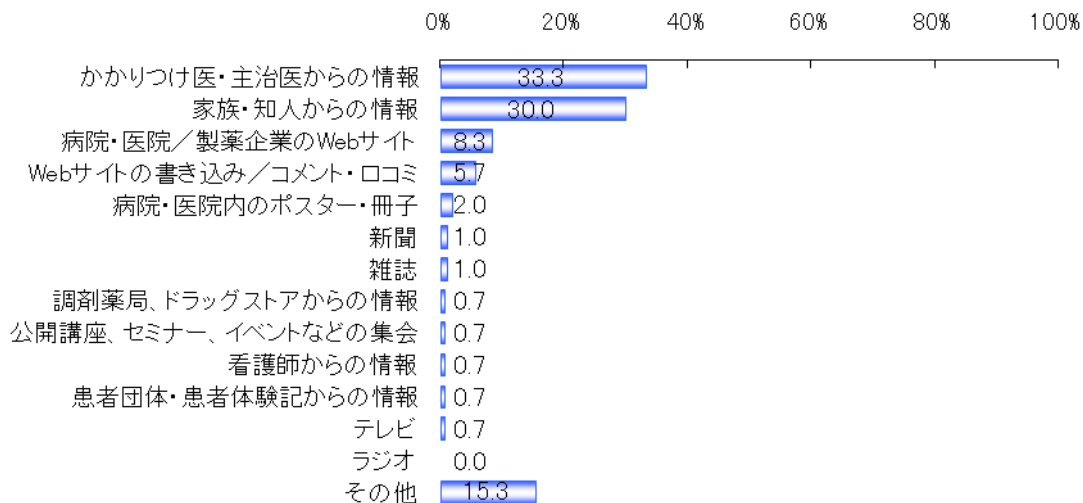
調査対象 : 全国 通院治療中の患者さん(疾患問わず)
有効回答数 : 300サンプル
調査方法 : インターネットリサーチ(楽天リサーチ)
調査日時 : 2011年2月24日(木)～ 2月25日(金)
調査内容 : 「病院受診に関する意識調査」

【主な調査項目と結果】

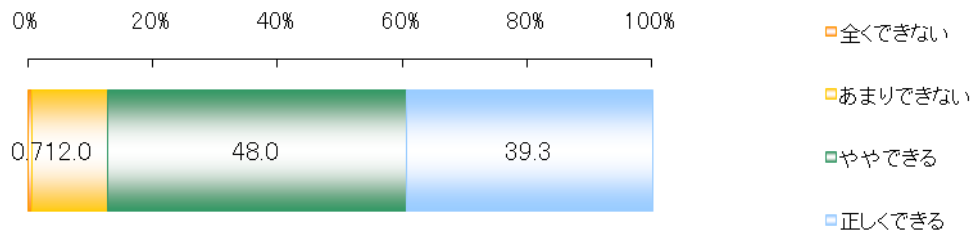
Q: 病気や治療法・薬に関する主な情報入手方法は何ですか。(いくつでも)



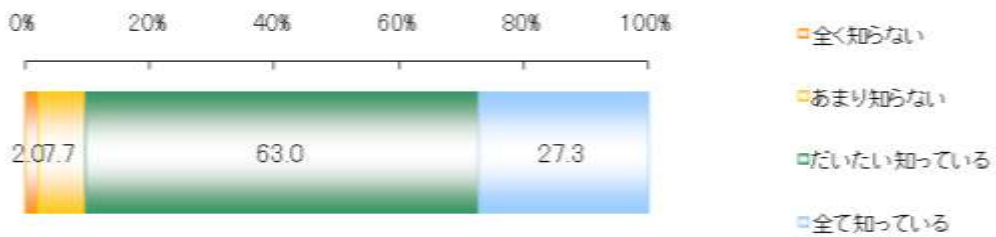
Q: 受診先の病院について、選択する決め手となった情報源は何ですか。



Q: 自分の病気について、他人に説明できますか。



Q: 自分が飲んでいる薬の名前、効能・効果、用量を知っていますか。



Q: あなたが持つ、病気や治療法・薬についての悩みや疑問は、どのようなものがありますか。
(いくつでも)



■ **フライシュマン・ヒラードおよびフライシュマン・ヒラード・ジャパンについて**

フライシュマン・ヒラード (Fleishman-Hillard) は 1946 年に創設され、本社を米国セントルイスに置く、現在世界 23 カ国、80 に及ぶ拠点、29 の専門分野をもつ世界最大の戦略コミュニケーション®コンサルティング会社です。

フライシュマン・ヒラード・ジャパン (Fleishman-Hillard Japan) は 1997 年 10 月に設立され、グローバルで確立された高度なコミュニケーション・ノウハウと技術を日本へ導入するとともに、日本独自の戦略コミュニケーション・コンサルティングを開拓し、業界を牽引しています。詳しくは <http://www.fleishman.co.jp/> をご覧ください。

■ **FH ヘルスケアについて**

FH ヘルスケアは、フライシュマン・ヒラード・ジャパンの医療専門ユニットとして、2008 年 10 月 1 日に発足しました。「Patient-Centered Approach®」という基本理念のもと、製薬企業、医療機器企業、病院などに対して専門的かつきめ細かいコミュニケーション・コンサルティングサービスを提供しています。詳しくは <http://fleishman.co.jp/hc/> をご覧ください。

[お問い合わせ先]
フライシュマン・ヒラード・ジャパン株式会社
FH ヘルスケア
大屋 亜希子、後藤 悦子
東京都中央区晴海 1-8-10
晴海トリトンスクエア X 38F
Tel: 03-6204-4355
Fax: 03-6204-4302
Email: akiko.ohya@fleishman.com